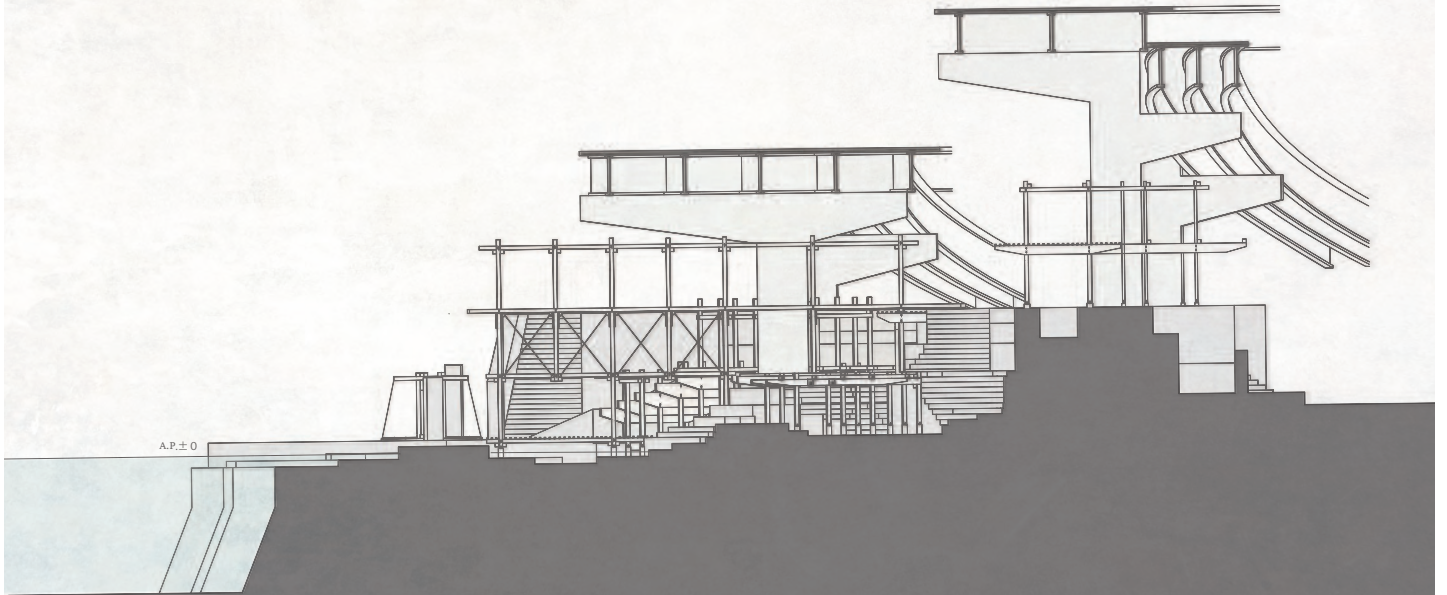




敷地：東京都墨田区隅田川神社 隅田川沿い
用途：宗教施設 遊歩道
模型：模型 1/100 敷地模型 1/400

浮島ノ宮

土木再考による象徴的拝殿空間



「1-1. 敷地」

隅田川神社及び隣接する高さ5m奥行30mの堤防と首都高高架下を対象とした。現状、隅田川と神社の間に土木構造物が竹み、川表には遊歩道が設置されている。神社のある川裏から川表までの移動動線は敷地から離れた場所にあり、境内から直接移動することはできない。土木構造物が大きな障壁となり非人間的かつ無機質な空間が続く。

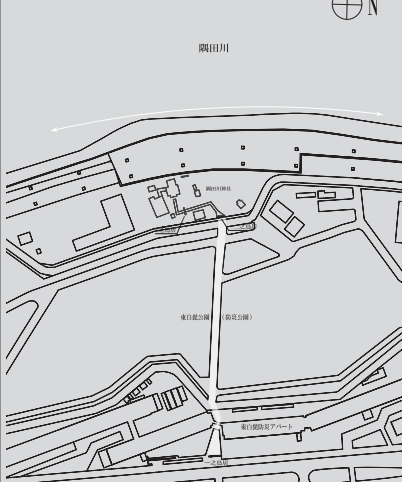


「2. 背景」

高度な治水技術を持っていなかった時代の人々は、川が増水しても沈まなかった土地に、「浮島の宮」として神社を建て、水害などの天災を恐れ、**水神**を祀り拝んだ。近代技術の発展によりコンクリート堤防や高架が建設され、神社境内が縮小。土木による神社と川が分断され、川との一体的な景観を失う。



「1-2. 敷地」

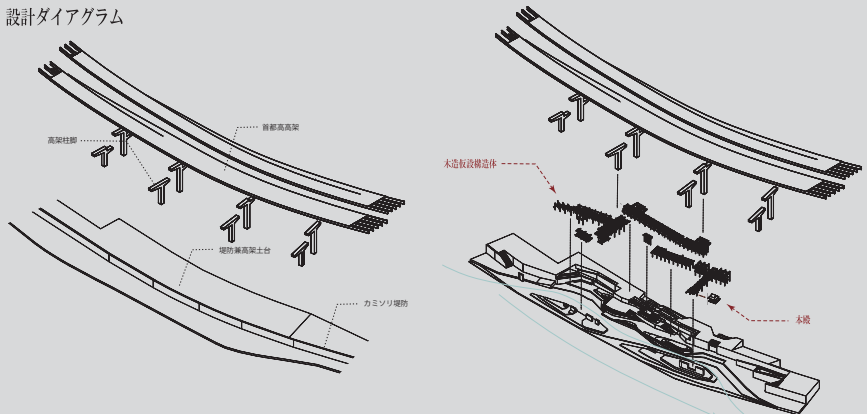


一之鳥居から三之鳥居までの間に防災アパート、防災公園を通る。このエリアは現状、災害時に人が避難しに来る場所となっている。境内まで続く参道の先には川への動線を塞ぐように堤防と高架が行んでいるため、増水時に川の危険性を見て取ることはできない

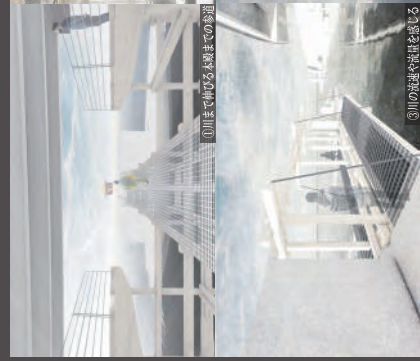
「3. 提案」

以上を踏まえて拝殿兼遊歩道を設計する。水神様が祀られている神社と川縁にあるべき姿に戻しつつ、川の強さを体感できる空間、水神様を象徴とする空間を創出させる

設計ダイアグラム



- 一、奥行30mの堤防を建築・ヒューマンスケールに落とし込むように等高線状に切り崩し地形をつくる。そして川水を引き込む。
- 二、地形の上に木造仮設構造体を設置し、川表の遊歩道を立体化。高架下を屋根下空間とする。
- 三、川裏の本殿を川表に移動し、参拝動線を川まで延長。



①川まで伸びる木造までの歩道



②スチールの間から柱目が見えたり



③川の流速が速いと感じる



④スターゲージとした足場に歩道が架かる



⑤廻りくぐる中を遊歩する

⑥上階から見た川の空気を吸える

自然(川)の及ぼす影響度
時間軸(年)

2024

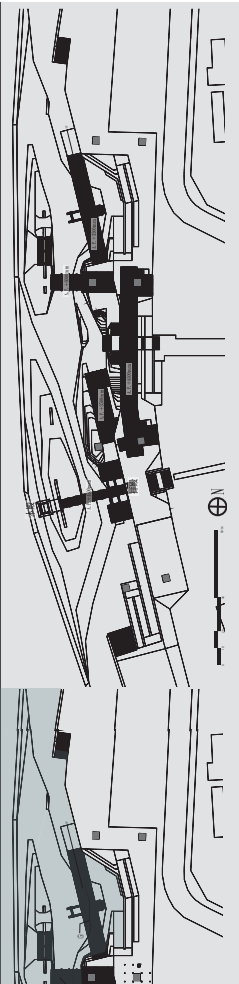
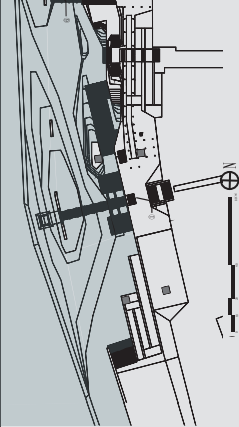
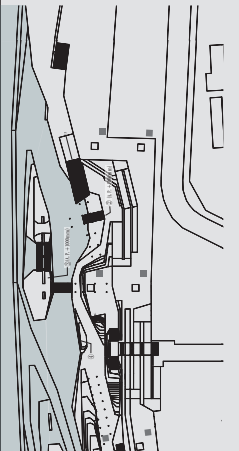
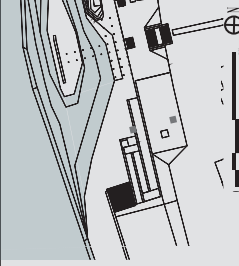
通常水位 (A.P. ±0mm)

20XX

増水による水位上昇 (A.P. +2000mm以上)

2XXX

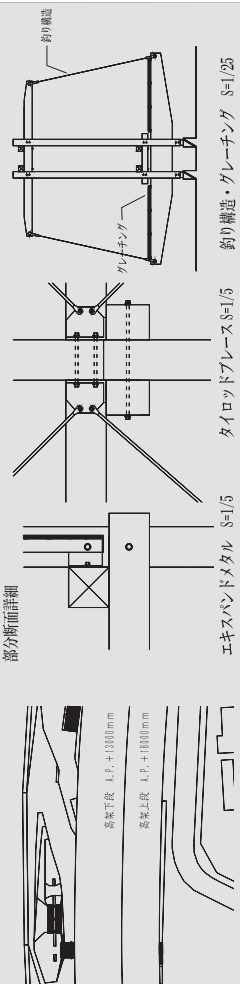
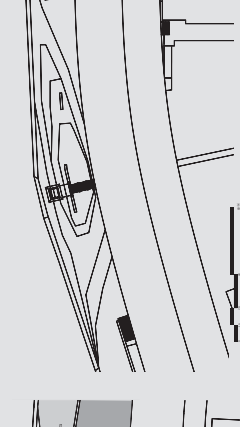
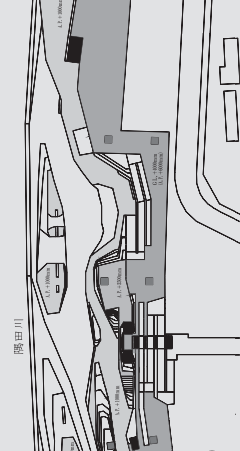
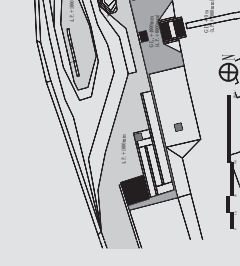
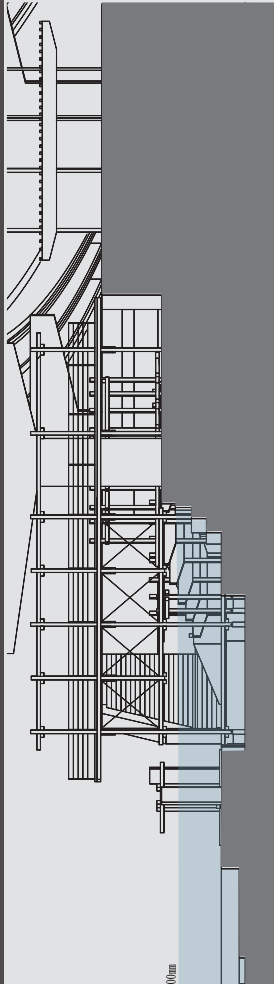
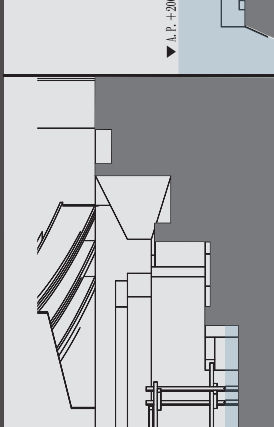
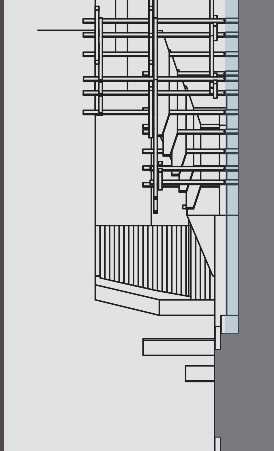
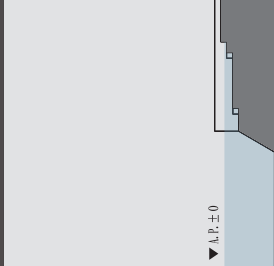
温暖化による水位上昇 (最大A.P. +3000mm)



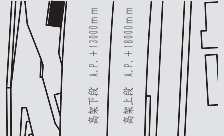
干潮の平均水位をA.P. ±0mmとしたときの水面位置である。このとき二つの離れ小島ができ、カミソリ足防・橋遊体が露出する。

水位が上昇してA.P. +2000mmとしたときの水面位置である。離れ小島は沈み、橋遊体の一部も水面に沈む。

A.P. +3000mmの位置にスタブを設け、一時的な「階」への避難可能

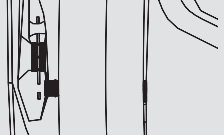


部分断面詳細



橋脚下段 A.P. +1300mm

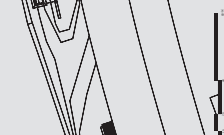
橋脚上段 A.P. +1300mm



エキスパントメタル S=1/5



タイロッドブレース S=1/5



釣り構造・クレーチング S=1/25